



WEEKLY REPORT

意識を喚起し、進んで行動を!!

第1687回 例会プログラム 2001.4.6 No.37

例会場：御殿場高原ホテル

開会点鐘：19:00

国歌斉唱：君が代

内容：3クラブ合同例会 観桜会 裾野RC

会員慶事

結婚記念日

4月7日 土屋闔正君ご夫妻

夫人誕生日

4月6日 林 由行君ご夫人 泰子さん

4月9日 山口幸男君ご夫人 勝子さん

次回年4月12日の例会

東山荘 《記念館》12:30点鐘
雑誌月間に因んで 雑誌広報委員会



会長挨拶

田代 博久



つい先日、沼津魚市場のある飲食店で食事をした時のことです。隣のテーブルに老夫婦と70歳台と思われる男性が注文の最中で「一人で、そんなに食べられますか」とお店の人が確かめていました。

確かめたその勇氣に感心しましたが、お客の食べ残しが多い昨今、私達の宴会でも、食べ残しで反省することが多くあります。

現在、社会問題になっているのがゴミ処理ですが、最も多いのが紙、二番目が生ゴミと呼ばれる家庭の食事の余り物です。その余り物を作り出す最大の原因が、奥さんの作り過ぎなのであります。奥さんが家族の食欲がどこを適度な基準にすれば良いのかわからないのです。きっとたくさん食べさせれば良いとしか考えていないのです。欲望のなせるままなのであります。その結果、食べ物は欲望の壁を越して溢れ、ゴミになって捨てられてしまう。世界の中で日本くらいムダなことをしている国はないということをテレビで知りましたが、NHKアナウンサーの鈴木健二さんがある本で、こんなことを述べております。

今の日本人は欲望の壁が体の四方に立っているために、クラスの友達とも親とも子供とも手をつ

なげないでいる。人の物を盗ってはいけないのだというコントロールがあるから、隣の人と手をつなぐことが出来てそこに人間関係が生まれ倫理や道徳が作られ、社会が形成されている。しかし欲望の壁はますます厚く高くなって行き、欲望もふくれ上がり、やがてのことに欲望が壁を変に越して、他人に襲いかかる。それをキレルといい、いじめや暴行がその表れとされる。社会はそのために暗くなる。

一見すると次元が異なるようですが、いじめとゴミは、底辺は同じではないのか。両方とも欲望がコントロール出来ないという現代日本人共通の心理の上に立っているにである。共に考えなければならぬテーマだと思います。

第2620地区御殿場ロータリークラブ

例会日/木曜日 12:30 ~ 13:30

例会場・事務局/YMCA東山荘

電話/0550-83-1133 FAX/0550-83-1138

<http://www.gotemba-rc.gr.jp/>

静岡県御殿場市東山1052

会長/田代 博久 会報委員長/臼井 良太

BE A TRUTHFUL ROTARIAN!

司法改革について

大森 清 治君



司法制度改革審議会は司法制度の利用者である国民の視点に立って「21世紀の我が国社会において司法が果たすべき役割を明らかにし、国民がより利用しやすい司法制度の実現、国民の司法制度への関与、法曹のあり方とその機能の充実強化その他の司法制度の改革と基盤の整備に関し必要な基本施策について調査審査する」ことを目的として、昨年7月、内閣の下に設置されたものである。そしてひととおりの調査審議を終え中間報告として取りまとめ、公表することにより国民各位による忌憚のない意見、要望等を仰ぐこととした。改革された制度を活かすもの、それは疑いもなく人である。いかに理想的な制度ないし仕組みを描いたとしても、それを実際に担う人的基盤の整備を伴わなければその機能を十分に発揮することはできません。プロフェッションとしての法曹（裁判官、検察官、弁護士）の質と量を大幅に拡充することが不可欠である。

我が国の法曹人口は先進諸国との比較において、その総数においても、司法試験、司法修習をえて誕生する新たな参入者数においても極めて少ない状況にあり、その増加の必要性は指摘されてきた。昭和39年司法試験の最終合格者数が戦後初めて500人をこえたがその後500人前後の数字が平成2年まで続いた。そして平成3年からようやく増加に転じ平成11年には1,000人に達した。法曹人口の総数は平成11年の数字で20,730人。ちなみに国際比較を

すると日本が約2万人6,300人に1人、アメリカが94.1万人290人に1人、イギリスが83万人710人に1人、ドイツが111万人740人に1人、フランスが36万人1,640人に1人と成っています。

質と量を確保するために現行の司法試験による合格者数を端的に大幅に増加させるということも考えられなくもないが、司法試験の問題点である受験者の受験技術優先の傾向がより顕著になり事態はより深刻なものになることが懸念される。

司法試験という点のみによる選抜ではなく、法学教育、司法試験、司法修習を有機的に連携させた「プロセス」としての法曹養成制度を新たに整備することが不可欠であり、その中核をなすものとして法曹養成に特化した教育を行うプロフェッショナルスクールである法科大学院を設けることが必要かつ有効であると考えます。1番早く法科大学院ができたとして第1回の卒業生ができるのは2005年で、関係者の予測では2010年～2015年頃から司法試験の合格者が3,000人くらいに成るそうです。



～4月2日のスマイル～

- ・少年サッカーの韓国遠征で日韓友好協会会長の林準さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。
勝又敏雄
- ・平成13年度の南小学校のPTA会長をおおせつかりました。一年間無事故であることを祈りつつ、日々の素行に気を付けながら、勤めあげたいと思います。
大庭健一郎

前回の出席報告

会員数	計算に用いる 会員数	出席数	暫定出席率	前々回の 確定出席率
62名	57名	51名	89.47%	100%

欠席者（6名）

石川又英君、梶原一正君、勝又敏樹君、斉藤礼志君、杉山敏夫君、渡辺剛康君

メーキャップ（14名）

3月4日 I.M 井口修一君、勝又英男君、勝又 誠君、
勝又敏雄君、大森清治君、小野寛幸君、
斉藤 保君、芹澤正明君、嶋田泉太郎君、
菅沼 久君、渡辺俊彦君
3月14日 長 泉 岡本隆典君
3月16日 裾 野 小野篤之君
3月22日 三島西 根上陽一君

